

## 1 単元構想

## (1) 身に付けさせたい資質・能力および児童の実態

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識・技能	除法の意味を理解し、乗法九九を用いて求める力。	たし算、ひき算の筆算など基本的な技能は身に付けている。九九や繰り上がりや繰り下がりのある計算などが苦手な児童も数名いる。
思考力・判断力・表現力	等分除・包含除の意味や求め方を既習の乗法や操作、図や言葉にして説明する力。	数の仕組みなどに興味をもつが、考えたことを言葉や図を使い表現するのは苦手な児童が多いので、言葉をつなぎながら、考え方や表現の仕方を学べるようにしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	身の回りから除法の場面を見出し、問題を考え、学んだことを活用して解決しようとする。	課題に意欲的に取り組む児童が半数以上だが、学習に苦手意識があり、考えることをしない受動的な児童もいるので、課題提示の工夫や活動場面を取り入れ能動的に課題に取り組む児童を育てたい。

(2) 目標 除法の意味を具体物の操作をもとに理解し、場면을除法の式に表すことができる。また、除法の答えの求め方を具体物の操作や乗法をもとに考え、九九1回でわりきれぬ除法の計算をすることができる。

## (3) 評価規準

【知識・技能】除法の意味（等分除、包含除）を理解し、場면을式に表して、乗法九九を用いて答えを求めることができる。

【思考・判断・表現】数量の関係や分け方に着目し、等分除、包含除の意味や答えの求め方を、具体物の操作や既習の乗法、減法や図をもとに考え、説明することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】除法の意味や計算の仕方について、具体物の操作や乗法などから捉えようとする。また、身の回りから除法の場面を見出すなど、除法の計算を生活や学習に生かそうとする。

## (4) 単元計画および指導方針（7時間予定）

時間	ねらい	評価項目（評価内容及び評価方法）	身に付けさせたい力（見方・考え方）	校内研修の視点（主体的・協働的な学び）
1 本時	12を四つに分ける活動を通して、除法と既習の乗法や分数、減法などと関連付けて考え、単元の課題を見いだすことができるようにする。	主12を四つに分ける活動を通して、除法と既習事項とを関連付けて考えている。	問題を解決する中で、除法と既習の学習を関連付けて考える力や見方。	・問題場면을条件不足にしたり、味を固定したりすることで、意欲的に課題解決に取り組むことができるようにする。 ・全体の言葉をつないで操作や結果を伝え合うことで、除法と既習事項を関連付けて考えることができる。
2	等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解する。	知等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。 考等分除の意味から、乗法九九を用いて答えを求める方法を考え、説明している。		・日常場面に近い問題にすることで、問題への関心を高める。 ・答えの求め方を全体で考えることで、乗法を使った除法の答えの出し方を理解できるようにする。
3	具体的な操作を通して、包含除の意味を理解し、包含除の場合も、場면을除法の式に表せることを理解する。	知等分したときのいくつ分の数を求めるとき（包含除）は、除法の式に表すことを理解している。 主等分除の意味や答えの求め方を、具体物や図、式を用いて考えたことを振り返り、包含除でもそれらを用いようとしている。	1時間目の分け方を基に、分け方に着目しながら等分除との違いを考え、除法と乗法とを関連付ける力。	・日常場面に近い問題にすることで、問題への関心を高める。 ・答えの求め方を全体で、図や具体物の操作を確認することで、包含除について理解できるようにする。
4	包含除の場合でも、答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算ができる。	知包含除の答えも、乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。		・日常場面に近い問題にすることで、問題への関心を高める。 ・答えの求め方を全体で考えることで、乗法を使った除法の答えの出し方を理解できるようにする。
5	具体的な場面の考察を通して、等分除、包含除と乗法との関係について理解する。	知除法の用いられる場面や意味を理解している。 考等分除、包含除の意味や違いを、既習の乗法や図をもとに考え、説明している。		・日常場面に近い問題にすることで、問題への関心を高める。 ・同じ式の問題場面の違いを全体で考えることで、分け方の違いに気付くことができるようにする。
6	0をわったり、1でわったりする計算の意味を理解し、計算できる。	知被除数が0の場合や除数が1の場合の除法の意味を理解している。 考被除数が0の除法の計算の意味を考え、説明している。	乗法との関係から0の除法についての解き方を考える力。	・日常場面に近い問題にすることで、問題への関心を高める。 ・除法と乗法の関係や既習の0の乗法を全体で振り返り、見通しをもつことで、0の除法についても理解できるようにする。
7	30÷6の問題を作り、解き合い、問題を仲間ごとに分ける活動を通し、等分除と包含除について理解できるようにする。	考等分除、包含除の意味や違いを、既習の乗法や図をもとに考え、説明している。	これまでの学習を基に、言葉や分け方に着目して問題を等分除、包含除に分ける力。	・自分の作った問題を友達に出すことで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 ・出てきた問題を類型化することで、等分除・包含除への理解を深めることができるようにする。

ねらい

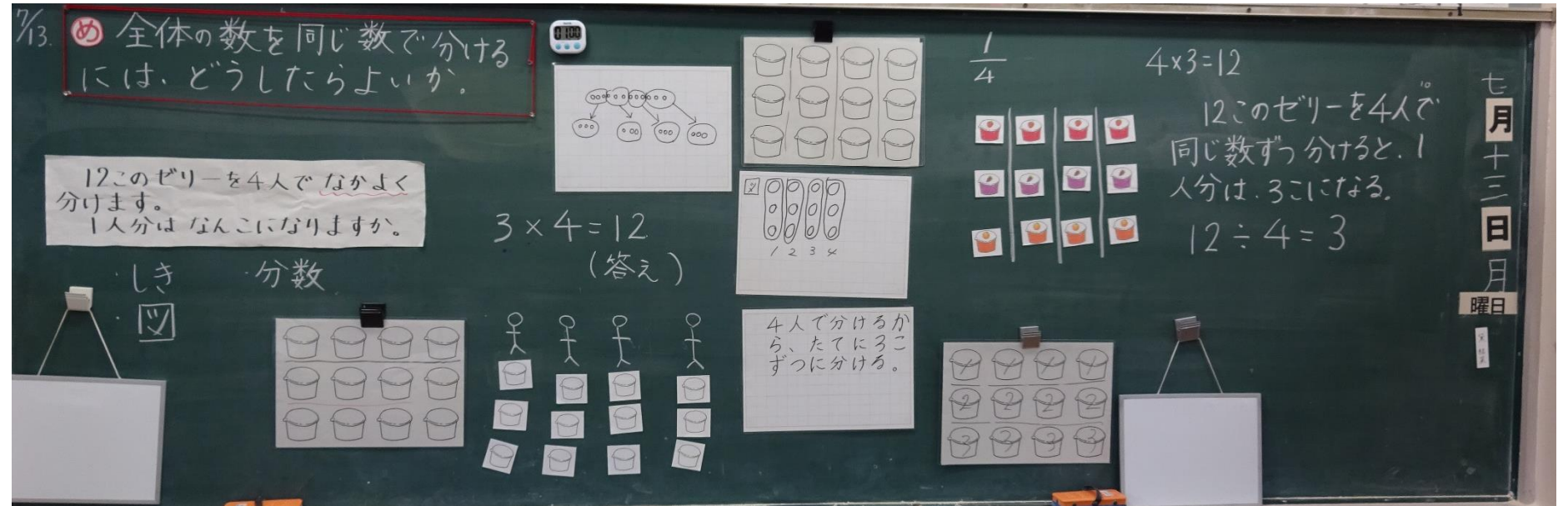
12を四つに分ける活動を通して、除法と既習の乗法や分数、減法などに関連付けて考え、単元の課題を見いだすことができるようにする。

身に付けさせたいこと

- ・方法や結果を図や操作で伝え合ったり、式に表したりすることで除法が既習事項(乗法や減法、分数)とつながっていることを理解する。

表れてほしい児童の意識(姿)

- ・具体物や図を使って、等しく分けることを説明する。
- ・操作や結果の式と除法の式とのつながりを捉える。



授業の流れ ○主な発問 ☆指導内容 ・予想される児童の反応 □評価

1 学習課題を把握する 10分

【本時の課題の把握】

(問題)ゼリーを4人で仲良く分けます。一人分のゼリーはいくつになりますか。

- 仲良く分けるには、どうしないといけないかな。
- ・みんなが同じ数(量)になるようにする。

- 一人分はいくつになりますか。
- ・ゼリーの数が分からないとできない。
- ・1/4にすればいいのかな。

☆条件不足の問題を提示したり、ゼリーを箱に入れておき数を予想させたりすることで、数への関心や感覚を高める。

2 個別に学習課題に取り組む。5分

【見通しをもち、個別に課題を追究する】

- ・おはじきを使って考えよう。
- ・図や言葉を使って考えよう。
- ・1つずつ4人に配ると一人分は3個になる。
- ・3つずつ4人に配ろう。

☆見通しを立て、共有することで、具体物の操作や既習での分け方で、個別に解決することができるようにする。

3 考えを発表し、全体で比較・検討する。20分

【既習の知識及び技能、経験を基に解決する】

- ・1つずつ分けると、一人3個になる。
- ・4のまとまり(4人分)を作ってから分ける。
- ・(箱を等分する見方)12の1/4は3個。
- みんなの方法を式にできるかな。
- ・1人3個だから、 $3 \times 4 = 12$
- ・ $3 + 3 + 3 + 3 = 12$
- ・ $1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 = 12$
- ・ $12 - 3 - 3 - 3 - 3 = 0$
- ・4人分とった方法だと  $4 \times 3 = 12$

(問題2)味が違うとき(いちご、ぶどう、オレンジ)は、どう分けますか。

- ・味が同じになるように分けたい。
- ・味ごとにまとめて、それを分けよう。

○式にしてみましょう。

・  $4 \times 3 = 12$

☆解決方法を実際に操作させることで視覚的な理解を促す。

主 12を四つに分ける活動を通して、除法と既習事項とを関連付けて考えている。(ノート・観察・発言)

4 学習のまとめをし、振り返りをする 10分

【新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす】

- 「12個のゼリーを4人で分けるとき、一人分は3個になる」を式にすると、 $12 \div 4 = 3$ となります。
- つながる見方や考え方はありますか。

ふりかえり

- ・わり算は、かけ算とつながっているな。
- ・わり算はどのようにして計算すればよいのだろう。

☆わり算の式の考え方を伝え、今までの考えとつながるところを考えさせることで、乗法と除法のつながりに気付くことができるようにする。